



2020年10月 6日

コロナ禍の「オンライン」ヨーロッパ留学 ～教育先進国フィンランドの大学でオンライン講義はどのように行われているか？～

豊橋技術科学大学が東フィンランド大学（フィンランド）やルーヴェン・カトリック大学（ベルギー）、サンテティエンヌ ジャン・モネ大学（フランス）と共同で実施している欧州の大学との連携による大学院修士学位プログラム（光イメージング情報学国際修士プログラム）、及び東フィンランド大学とのダブルディグリー・プログラムがコロナ禍のなか今年9月に開始されました。ヨーロッパで1年間（フィンランド→フランスあるいはベルギー）、その後帰国して豊橋で1年間学び、本学と欧州の大学からそれぞれ修士号が授与されるというプログラムです。本学からも11名の大学院生が参加していますが、コロナ禍の影響で、いまだ実際にヨーロッパに渡航することはできていません。渡航はできないものの、すでに9月から入学ガイダンスや全ての講義がオンラインで提供され（distance learning と呼ばれています）、11名の学生はフィンランド時間（日本より6時間遅い、11月からはサマータイムが終了し7時間遅くなる）で生活しながら、日本とはずいぶん様子が違う講義スタイルに戸惑いながらも、国際的な雰囲気刺激を受け、日々忙しくも充実した留学生活を送っています。

日本では大学の閉鎖やオンライン講義によって学生生活の質が低下したなどの声がSNSを中心に広がり、それを受けて多くの大学が後期から対面とオンラインを併用しながら講義を実施しようとしています。一方、欧州は日本とはずいぶん様子が異なります。例えばフィンランドでは、政府が緊急事態宣言を出した3月16日のわずか2日後には全ての大学が閉鎖となり、教職員は全て在宅勤務になりましたが、その代わりに講義を含む全ての大学機能がオンラインへ移行し、現在もその状態が続いています（小中学校は通学を再開しています）。しかし、日本で問題となったようなオンライン講義の弊害についての声はあまり聞かれません。

教育先進国のフィンランドではどのようなオンライン講義で行われているのか、日本人学生は日本とフィンランドのオンライン講義の違いをどのように感じているのか、フィンランドの教員はオンライン講義でどのような工夫をしているのか。日本にいながらフィンランドの大学のオンライン講義を受講できるコロナ禍のこのタイミングこそ、フィンランドが教育先進国と呼ばれる秘密を学ぶ絶好のチャンスだと考えています。



図1：光通信および光学に関する講義を受ける本学学生

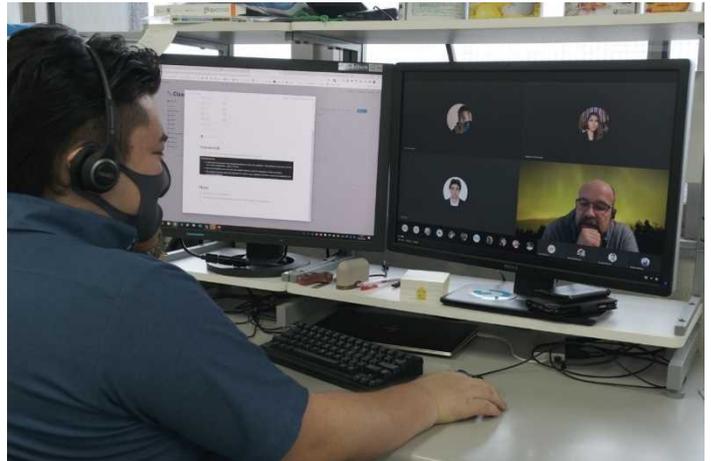


図2：ロボティクスとバーチャルリアリティに関する講義を受ける本学学生



図3：オンライン・グループワーク課題の説明を受ける本学学生

(参考情報)

- 大学の世界展開力強化事業 光イメージング情報学国際修士プログラム IMLEX
<https://imlex.tut.ac.jp/>
- 東フィンランド大学とのダブルディグリー・プログラム
<http://ignite.tut.ac.jp/cir/japanese/ddp/ddp-uef.html>

この度、本学学生の海外オンライン講義の様様をご希望がございましたら取材をお受けいたします。別紙様式にご希望を記入し FAX・メールにて申込みください。

取材申込

下記ご記入の上、10月16日(金)迄にご返信いただけますと幸いです。
(TEL : 0532-44-6506, FAX : 0532-44-6509, Mail : kouho@office.tut.ac.jp)

「豊橋技術科学大学×東フィンランド大学のオンライン講義取材」

【取材対応例】

- ・日本人学生がオンライン講義を受講している様子の撮影
- ・日本人学生へのインタビュー
- ・同じプログラムをオンラインで受講している他国学生へのインタビュー
- ・フィンランドの大学教授へのインタビュー
- ・本学担当教授へのインタビュー、など

機関名	
ご芳名	
ご連絡先	差し支えなければ当日ご連絡用に携帯電話番号をご記載ください。
取材希望日時	月 日 時～ 時 ※取材日時については、オンライン講義の日時に合わせ調整いたします。 リアルタイムでフィンランドの授業の取材をご希望の場合は、15-16 時以降（日本時間）での撮影・取材となります。

<個人情報の取り扱いについて>

ご記入いただいた個人情報は、今回のご取材関連のご連絡および今後の情報ご提供のみに利用させていただきます。

本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報係 堤・高柳・杉村 TEL:0532-44-6506